

## 第08講 【 蔵象 I 】 教科書 P.35～38

### [ 総論 ]

蔵象： { 蔵：隠す、隠れる、隠れた — 体内に存在する臓腑  
象：現象、徴候 ————— 体外に表現される生理・病理現象

\*「象を以って蔵(臓)を推し測る」

：人体外部から観察することのできる生理・病理現象から人体内部の目で見ることのできない臓腑の生理・病理変化と相互関係を推測する。

### 1. 蔵象の主要内容

- ① 臓腑の生理（病理）作用
- ② 臓腑とその関連器管
- ③ 臓腑間の関係

### 2. 臓腑の分類 『 内経 』

臓腑 { 臓： 五臓・・・心・肺・脾・肝・腎・心包  
腑： { 六腑・・・小腸・大腸・胃・胆・膀胱・三焦  
奇恒の腑（府）・・・骨・髓・脳・脈・胆・女子胞

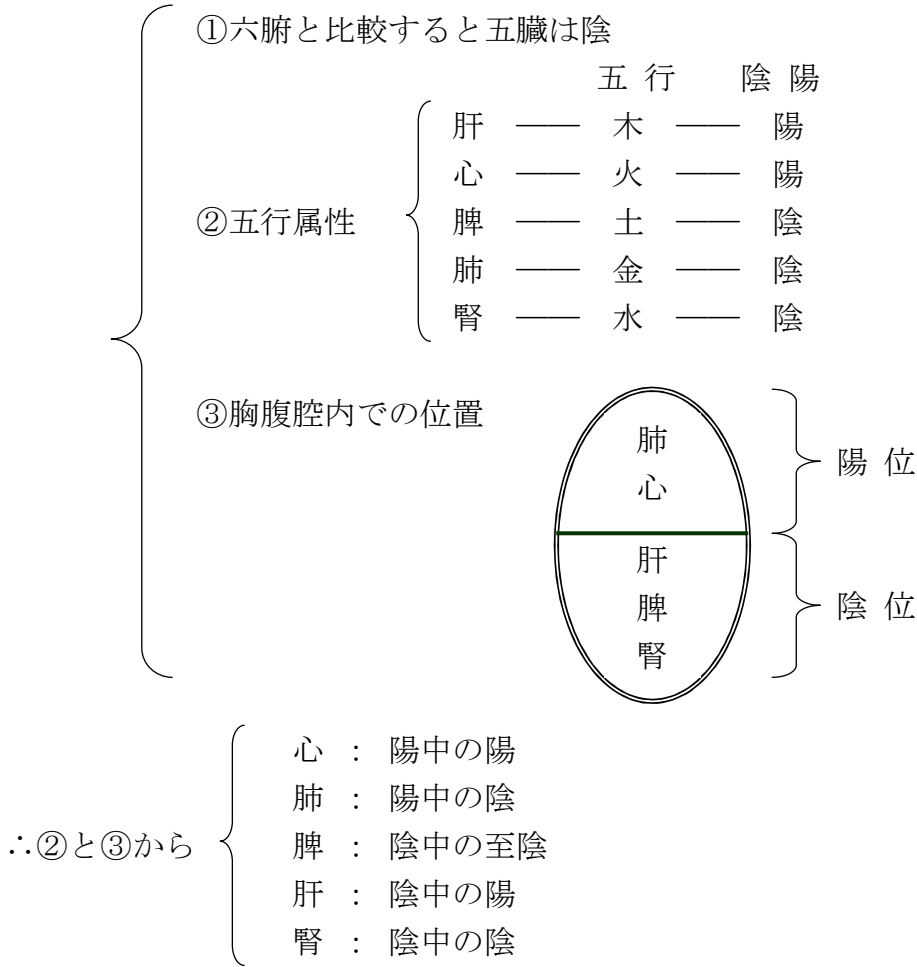
特徴：

	属性	構成	機能	臨床
五臓	陰	実質性器管	精気を蔵す	精気は消耗しやすく、虚証が多い
六腑	陽	中空性器管	水穀の伝化	水穀は停滞しやすく、実証が多い
奇恒の腑	陰	中空性器管	精気を蔵す	五臓に同じ

### 五臓

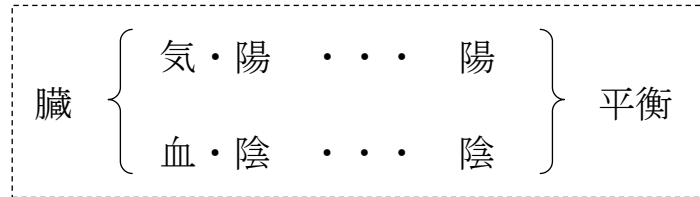
：五臓とは心・肺・脾・肝・腎の総称で、心包を加えて六臓とも呼ぶ。

## 1. 属性



## 2. 五臓の機能構成

\* 臓は 臓気・臓血・臓陰・臓陽により構成される。



『臨床での臓腑気血陰陽失調の傾向』

心	:	<u>心気</u> ↓	—	<u>心血</u> ↓	—	<u>心陰</u> ↓	—	<u>心陽</u> ↑↓
肺	:	<u>肺気</u> ↓	—	肺血	—	<u>肺陰</u> ↓	—	肺陽
脾	:	<u>脾気</u> ↓	—	脾血	—	脾陰	—	<u>脾陽</u> ↓
肝	:	<u>肝気</u> ↑	—	<u>肝血</u> ↓	—	<u>肝陰</u> ↓	—	<u>肝陽</u> ↑
腎	:	<u>腎気</u> ↓	—	<u>腎精</u> ↓	—	<u>腎陰</u> ↓	—	<u>腎陽</u> ↓

## 3. 臓腑系統

	腑	主	華	官	液	神	志
肝	胆	筋	爪	目	淚	魂	怒
心	小腸	血脈	面色	舌	汗	神	喜
脾	胃	肌肉	唇	口	涎	意・智	思
肺	大腸	皮毛	毛	鼻	涕	魄・気	憂・悲
腎	膀胱	骨髓	髪	耳・二陰	唾	志・精	恐・驚

五 主：肉体を構成する 5 つの組織。

五 華：臓腑の状態を反映しやすい組織器官。

五 官(五竅)：目・舌・口・鼻・耳の 5 つの器官。また、目と耳は 2 つずつあるので「七竅」、更に二陰(前陰・後陰)を加えて「九竅」と呼ぶ。

五 液：5 種の分泌物・排泄物。

五 神：5 種の精神・意識・思考活動。

五 志：5 種の人の感情。

## 4. 五臓の平衡維持

- ① 五臓の気血陰陽の平衡維持 } による  
② 五臓間の生克平衡の維持 }

## 【練習問題】

問 1. 六腑に含まれる臓腑名をすべて答えよ。

[ ]

問 2. 奇恒の府に含まれる臓腑名をすべて答えよ。

[ ]

問 3. 五臓の中で“陰中の陽”にあたる臓腑名を答えよ。

問 4. 肝を構成する物質の中で亢進しやすい傾向を持つ物を全て答えよ。

問 5. 脾の臓腑系統を答えよ。

腑	主	華	官	液	神	志